

第4回B02班会議議事録

日時：2010年12月28日 15:30～18:30

会場：東京大学新領域生命棟講義室

出席者：米田穰（研究代表者）、阿部彩子・小口高・横山祐典（研究分担者）、丸川雄三（総括班研究分担者）、仲田大人（A01班研究協力者）、Masa Kageyama（海外研究協力者）、近藤康久（研究協力者）、Wing-Le Chan（研究協力者）、Mark Diab（研究協力者）、Stephen Obrochta（研究協力者候補）、大学院生オブザーバー15名

演題：

（1）「学術用途向けのインターネット GIS と考古研究」

小口高（東京大学空間情報科学研究センター：研究分担者）

近藤康久（東京大学空間情報科学研究センター：研究協力者）

（2）「地球化学プロキシを用いた古環境復元と人類進化研究」

Stephen Obrochta（東京大学大気海洋研究所横山研：研究協力者候補）

講演要旨：

（1）「学術用途向けのインターネット GIS と考古研究」小口高・近藤康久

小口から、現在研究に主に使用しているGISサーバーであるArcGISについて、その機能が紹介された。また、小口らによって作成された日本列島における扇状地地形データベースについて、そのサーバー運用方法などが紹介された。現在、当データベースは運用が停止しているとの報告があったが、丸川によって国立情報学研究所のサーバーでの運用・公開の可能性について提案がなされた。

続いて、近藤からは本計画研究で構築したArcGISシステムのデモンストレーションが行われた。また、今年度Accessを用いて構築された西アジア地域のデータについての年代データの情報変換方法についての報告がなされた。

（2）「地球化学プロキシを用いた古環境復元と人類進化研究」Stephen Obrochta

講演者が博士論文研究で行った北大西洋の深海コアを用いて、地球化学プロキシからどのような情報を抽出することができるのか、また交替劇でしばしば注目されるMIS3（海洋酸素同位体ステージ3）における急激な環境変動（ハインリッヒイベントとダンスガード・オシュガーサイクル）のデータ紹介と、ホモ・サピエンスの進化によって重要であったMIS6

（2～1.2万年前）の対比がなされた。MIS3と比較してMIS6は安定した気候状態であり、ハインリッヒイベントやダンスガードオシュガーサイクルが弱かった可能性があることが指摘された。さらに、アフリカの地上情報との対比などが可能となれば、人類進化への影響を検討できることが期待される。

事務連絡事項：

- 1/19(水)に国立科学博物館で一般公開セミナーを開催
- 今年度開催を議論していき、外国人研究協力者との研究集会は 2011 年 10 月開催を目標に再調整することとなった。
- 5月に開催される日本地球惑星科学連合大会において「人類進化と気候変動」のセッションを共同提案したことが確認された。分担者および協力者は口頭発表を申し込む予定である。

以上